

取扱説明書

RadiForce® GX540-CL GX540-CLAR

モノクロ液晶モニター

重要

ご使用前には必ず使用上の注意、この取扱説明書およびセットアップマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

-
- コンピュータとの接続から使いはじめるまでの基本説明についてはセットアップマニュアルを参照してください。
 - 最新の取扱説明書は、当社のWeb サイトからダウンロードできます。
<http://www.eizo.co.jp>
-



製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

-
- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
 - 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
 - 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
 - 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
-

モニターについて

この製品は、MRIやCT、デジタルマンモグラフィなどの医用画像表示用途に適しています。

この製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。

本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。

この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れたあと、または省電力モードから復帰して30分以上経過するまでお待ちください。

画面の品質が安定するのに、数分かかります。モニターの電源を入れたあと、または省電力モードから復帰して数分以上経過してから読影をおこなってください。

経年使用による輝度変化を抑え、安定した輝度を保つためには、ブライトネスを下げて使用されることをお勧めします。また、キャリブレーション、不変性試験（階調チェック含む）を定期的に行ってください（「[第4章 モニターの品質を管理する](#)」（P.24）参照）。

同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として見えることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをお勧めします（「[クリーニングの仕方](#)」（P.4）参照）。

画面上に欠点、発光している少数のドットが見られることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、製品本体の欠陥ではありません。

液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、販売店またはEIZOサポートにお問い合わせください。

パネル面やパネルの外枠は強く押さないでください。強く押すと、干渉縞が発生するなど表示異常を起こすことがありますので取り扱いにご注意ください。また、パネル面に圧力を加えたままにしておきますと、液晶の劣化や、パネルの破損などにつながる恐れがあります。（液晶パネルを押した跡が残った場合、画面全体に白い画像または黒い画像を表示すると解消されることがあります。）

パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、製品の表面や内部に露が生じることがあります（結露）。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

クリーニングの仕方

注意点

- アルコール、消毒薬などの薬品は、キャビネットやパネル面の光沢の変化、変色、色あせ、画質の劣化などにつながる恐れがあります。
- シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナは、キャビネットやパネル面をいためるため絶対に使用しないでください。

参考

- キャビネットやパネル面のクリーニングにはScreenCleaner（オプション品）をご利用いただくことをお勧めします。（GX540-CLARには付属しています。）

キャビネットやパネル面の汚れは、やわらかい布に少量の水をしめらせてやさしくふき取ってください。

モニターを快適にご使用いただくために

- 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1 時間に約 10 分の休憩を取ってください。

目次

モニターについて	3
クリーニングの仕方	4
モニターを快適にご使用いただくために	4
目次	5
第1章 はじめに	7
1-1. 特長	7
1-2. EIZO LCDユーティリティディスクについて	8
● ディスクの内容と概要	8
● RadiCS LE/ScreenManager Pro for Medicalを使用するときは	8
1-3. 基本操作と機能一覧	9
● 調整メニューの基本操作方法	9
● 機能一覧	10
第2章 画面を調整する	12
2-1. 対応解像度	12
2-2. 解像度を設定する	12
● Windows 8 / Windows 7の場合	12
● Windows Vistaの場合	12
● Windows XPの場合	12
● Mac OS Xの場合	13
2-3. モードを調整する	13
● 表示モード (CAL Switchモード) を選択する	13
● 各モードの調整項目	14
● ブライトネス (明るさ) を調整する	14
● モノクロ画像表示エリアのモードを設定する	15
● ベース表示エリアのモードを設定する	15
● 画像表示エリアの検出タイプを設定する	16
● 画像表示エリアのハイライト表示を設定する	16
● 環境照度の検知感度を設定する	16
● 環境輝度の目標値を設定する	17
● 環境輝度の現在値を表示する	17
第3章 モニターを設定する	18
3-1. 設置方向を設定する	18
3-2. 階調表示警告を表示/非表示にする	18
3-3. 入力信号を設定する	19

● DVI接続する	19
● DisplayPort接続する	19
3-4. モード選択の有効/無効を設定する	20
3-5. 表示言語を設定する	20
3-6. 調整メニューの表示を設定する	20
● 調整メニューの位置を変更する	20
3-7. EIZOロゴを表示/非表示にする	21
3-8. 操作ボタンをロックする	21
3-9. DDC通信の有効/無効を設定する	22
3-10. DC5V出力の有効/無効を設定する	22
3-11. 初期設定に戻す	23
● モード調整値をリセットする	23
● すべての設定内容をリセットする	23
第4章 モニターの品質を管理する	24
4-1. キャリブレーションを実行する	24
● SelfCalibrationを実行する	24
● SelfCalibrationの結果を閲覧する	25
4-2. 階調をチェックする	25
● 階調チェックを実行する	25
● 階調チェックの結果を閲覧する	25
4-3. 寿命予測データを取得する	26
4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する	26
4-5. Quick Image Checker機能を使用する	27
第5章 省電力機能について	28
5-1. パワーセーブを設定する	28
5-2. 電源ランプの明るさを調整する	28
5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する	29
5-4. 離席時の省電力モードを設定する	30
第6章 こんなときは	31
6-1. 画面が表示されない場合	31
6-2. 画面に関する症状	32
6-3. その他の症状	33
● エラーコード表	34

第7章 ご参考に	35
7-1. アーム取付方法	35
7-2. 複数のコンピュータを接続する	36
● 入力信号を切り替える	36
● 入力信号の切替方法を設定する	37
7-3. USB (Universal Serial Bus) の活用について ...	38
● 必要なシステム環境.....	38
● 接続方法 (USB機能のセットアップ方法) ...	38
7-4. モニター情報を表示する.....	39
● 信号情報を表示する.....	39
● モニター情報を表示する	39
7-5. 仕様.....	40
第8章 用語集.....	43
付録	45
商標	45
ライセンス	45
VCCI.....	46
医療規格	46
その他規格	46
中国RoHS	47
製品回収、リサイクルシステムについて	48

第1章 はじめに

このたびは当社モノクロ液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1-1. 特長

- 21.3型
- 解像度5Mピクセル（縦表示2048×2560ドット（H×V））対応
- 15メガサブピクセル表示
サブピクセルを独立して制御するSub-Pixel Drive（SPD）機能により超高解像度2048×7680ドットの表示が可能です。15メガピクセル（15MsP）、1,500万画素の表示によって、元画像をよりきめ細かく再現し、輪郭を鮮明に抽出します。
※1 15MsP表示に対応したソフトウェアが必要です。
※2 15MsP表示時は最大10bit同時表示に対応します
- 高コントラスト比（1200：1）のパネルを採用
メリハリのある画像表示を実現します。
- DisplayPort対応（8bitまたは10bitに対応、音声は非対応）
- 同一画面内の医用画像とそれ以外の表示エリアを自動判別し、それぞれ設定した状態で表示することが可能なHybrid Gamma機能を搭載
※3 表示する画像によっては判別の不整合が発生する場合があります。使用するソフトウェアとの検証が必要です。検証の際には、「[画像表示エリアのハイライト表示を設定する](#)」（P.16）を参照してください。
- Integrated Front Sensorを内蔵し、モニター単独でのキャリブレーションおよび階調チェックが可能なRadiCS SelfQC機能を搭載
「[第4章 モニターの品質を管理する](#)」（P.24）参照
※4 保護パネルRP-901を装着した場合、Integrated Front Sensorは使用できません。
- CAL Switch（キャルスイッチ）機能を搭載し、表示画像に適した表示モードを選択可能
 - 環境照度に合わせ、輝度を変更するALTモードを搭載
 - キャリブレーションに最適なモードを搭載
「[表示モード（CAL Switchモード）を選択する](#)」（P.13）参照
- DICOM（P.43） Part 14に準拠した画面選択が可能
- キャリブレーション、履歴の管理が可能な品質管理ソフトウェア「RadiCS LE」を添付
「[1-2. EIZO LCDユーティリティディスクについて](#)」（P.8）参照
- マウスやキーボードを使って画面を調整するソフトウェア「ScreenManager Pro for Medical」添付
「[1-2. EIZO LCDユーティリティディスクについて](#)」（P.8）参照
- フレーム同期モード対応周波数：24.5 ～ 25.5 Hz（DVI入力時のみ）、49 ～ 51 Hz
- 省電力機能
この製品は省電力のための機能を搭載しています。
 - 主電源オフ時消費電力0W
主電源スイッチを装備。
モニターを使用しない時は、主電源スイッチを切ることで、確実に電源供給が停止します。
 - 人感センサー機能
モニター正面のセンサーが人の動きを検知します。人がモニターから離れると、自動的に省電力モードに移行して画面を非表示にするため、消費電力の低減につながります。
「[5-4. 離席時の省電力モードを設定する](#)」（P.30）参照
- 長寿命なLEDバックライト液晶パネルを搭載

- 照度センサーを内蔵
環境照度（ルクス）を測定することができます。環境によっては、照度計と異なる測定値を示す場合があります。
センサーは、ALTモード選択時や、品質管理ソフトウェア「RadiCS/RadiCS LE」で使用します。測定は、ユーザーがメニューを操作することで実行できます。
測定値や測定方法の詳細は、RadiCS/RadiCS LE取扱説明書（CD-ROM内）を参照してください。
- HDCP（著作権保護技術）により保護されたコンテンツを表示可能（DisplayPortのみ）

注意点

- 高温や高湿度の環境は、Integrated Front Sensorの測定精度に影響を与えます。次の条件でモニターを保管、または使用することをお勧めします。
 - 温度 30℃以下
 - 湿度 70%以下
- 直射日光下での保管、使用を避けてください。

1-2. EIZO LCDユーティリティディスクについて

この製品には「EIZO LCDユーティリティディスク」（CD-ROM）が付属しています。ディスクの内容及ソフトウェアの概要は次のとおりです。

● ディスクの内容及概要

ディスクには、調整用のソフトウェア、取扱説明書が含まれています。各項目の起動方法や参照方法はディスク内のReadmeja.txtを参照してください。

内容	概要
Readmeja.txtファイル	
RadiCS LE（Windows用）	キャリブレーションをおこない、履歴管理が可能な品質管理ソフトウェアです。
ScreenManager Pro for Medical（Windows用）	マウスやキーボードを使って画面を調整するソフトウェアです。
モニターの取扱説明書（PDFファイル）	

● RadiCS LE/ScreenManager Pro for Medicalを使用するときは

RadiCS LE/ScreenManager Pro for Medicalのインストール方法、使用方法については、ディスク内のそれぞれの取扱説明書を参照してください。

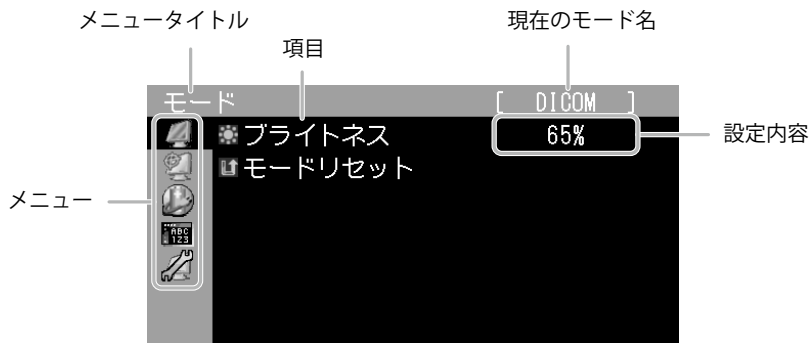
ソフトウェアを使用する場合は、モニターとコンピュータを付属のUSBケーブルで接続してください。詳細は、「[7-3. USB（Universal Serial Bus）の活用について](#)」（P.38）を参照してください。

1-3. 基本操作と機能一覧

● 調整メニューの基本操作方法

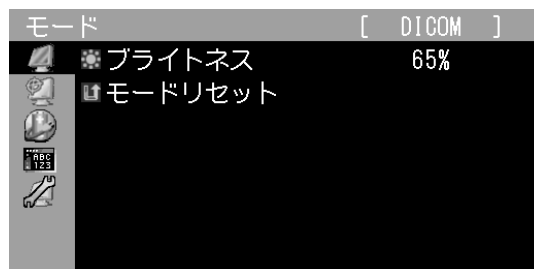
1. 調整メニューの表示

1. ENTER を押し、調整メニューを表示します。

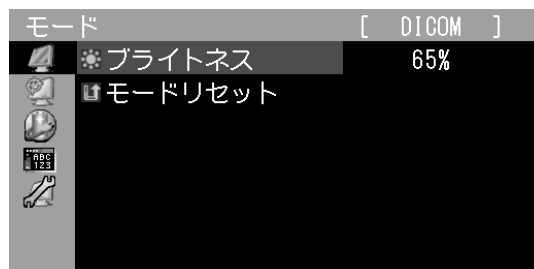


2. 調整/設定

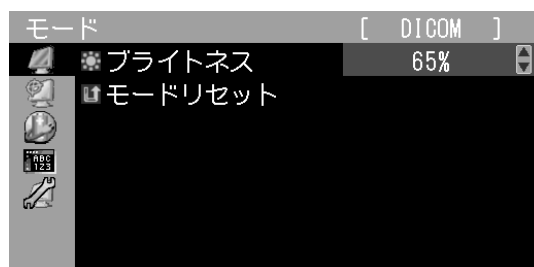
1. ▲▼ で、調整/設定したいメニューを選択し、ENTER を押します。



2. ▲▼ で、調整/設定したい項目を選択し、ENTER を押します。



3. ▲▼ で、調整/設定し、ENTER を押して確定します。



3. 終了

1. RETURN を数回押すと、メニューを終了します。

● 機能一覧

調整メニューおよび各メニューの設定項目の一覧表です。

メインメニュー	項目	参照先
モード 	 ブライツネス	「2-3. モードを調整する」 (P.13)
	 Gray Area	
	 Base Area	
	 Hybrid Assignment	
	 Highlight Area	
	 検知感度	
	 Lamb目標値 (最低)	
	 Lamb目標値 (標準)	
	 Lamb目標値 (最高)	
	 現在の状態	
	 モードリセット	「3-11. 初期設定に戻す」 (P.23)
RadiCS SelfQC 	 SelfCalibration	「4-1. キャリブレーションを実行する」 (P.24)
	 階調チェック	「4-2. 階調をチェックする」 (P.25)
	 LEA	「4-3. 寿命予測データを取得する」 (P.26)
	 設定	「4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する」 (P.26)
Power Manager 	 パワーセーブ	「5-1. パワーセーブを設定する」 (P.28)
	 ランプ輝度	「5-2. 電源ランプの明るさを調整する」 (P.28)
	 人感センサー	「5-4. 離席時の省電力モードを設定する」 (P.30)
メニュー設定 	 言語選択	「3-5. 表示言語を設定する」 (P.20)
	 メニューポジション	「3-6. 調整メニューの表示を設定する」 (P.20)
ツール 	 入力	「入力信号を切り替える」 (P.36)
	 入力切替	「入力信号の切替方法を設定する」 (P.37)
	 モード設定	「3-4. モード選択の有効/無効を設定する」 (P.20)
	 入力信号情報	「7-4. モニター情報を表示する」 (P.39)
	 モニター情報	
	 オールリセット	「3-11. 初期設定に戻す」 (P.23)

オプション設定	起動ロゴ		「3-7. EIZOロゴを表示/非表示にする」 (P.21)
	操作ロック		「3-8. 操作ボタンをロックする」 (P.21)
	設置方向		「3-1. 設置方向を設定する」 (P.18)
	階調表示警告		「3-2. 階調表示警告を表示/非表示にする」 (P.18)
	信号選択		「3-3. 入力信号を設定する」 (P.19)
	接続設定	DDC	「3-9. DDC通信の有効/無効を設定する」 (P.22)
		DC5V Output	「3-10. DC5V出力の有効/無効を設定する」 (P.22)
		DP Power Save	「5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する」 (P.29)

第2章 画面を調整する

2-1. 対応解像度

この製品の対応解像度については、セットアップマニュアル「表示解像度について」を参照してください。

2-2. 解像度を設定する

● Windows 8 / Windows 7の場合

1. Windows 8の場合、スタート画面から「デスクトップ」のタイルをクリックして、デスクトップを表示します。
2. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
3. 表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。
4. 「画面の解像度」ダイアログボックスで、モニターを選択します。
5. 「解像度」をクリックして変更したい解像度を選択します。
6. 選択したら、「OK」ボタンをクリックします。
7. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「変更を維持する」ボタンをクリックします。

● Windows Vistaの場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
2. 表示されるメニューから「個人設定」をクリックします。
3. 「個人設定」ウィンドウで「画面の設定」をクリックします。
4. 「画面の設定」ダイアログボックスで「モニタ」タブを選択し、「解像度」の欄から変更したい解像度を選択します。
5. 選択したら、「OK」ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

● Windows XPの場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
2. 表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。
3. 「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されるので、「設定」タブをクリックし、「ディスプレイ」の「画面の解像度」で解像度を選択します。
4. 選択したら、「OK」ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

● Mac OS Xの場合

1. アップルメニューの「システム環境設定」をクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログボックスが表示されるので、「ハードウェア」欄の「ディスプレイ」をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで「ディスプレイ」タブを選択し、「解像度」の欄から変更したい解像度を選択します。
4. 選択したらすぐに画面が変更されるので、適切な解像度に設定したらウィンドウを閉じます。

2-3. モードを調整する

● 表示モード（CAL Switchモード）を選択する

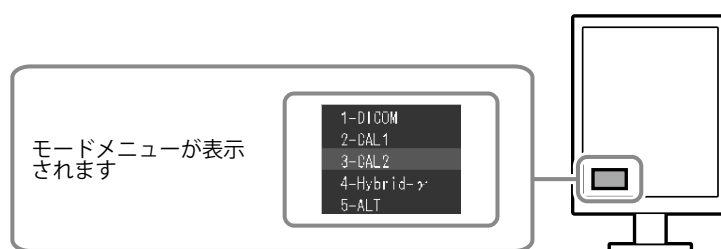
モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。

モードの種類

○：キャリブレーション可能

モード	目的	
1-DICOM	DICOMで表示したい場合に選択します。	○
2-CAL1/3-CAL2	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
4-Hybrid-γ	同一画面内の医用画像とそれ以外の表示エリアを自動判別し、それぞれ設定した状態で表示します。	—
5-ALT※1	環境照度に応じた輝度、階調で表示したい場合に適しています。	—

※1 ご使用の環境によっては、正しく表示されない場合があります。また、このモードを使用してモニターの品質を管理することはできません。



設定方法

1. MODE を押します。
モードメニューが左下に表示されます。
2. MODE を押すたびにモードが順に切り替わり表示されます。
モードメニュー表示中は、▲または▼を押してモードを切り替えることもできます。

→1-DICOM←→2-CAL1←→3-CAL2←→4-Hybrid-γ←→5-ALT←











参考

- ・ 調整メニューとモード名を同時に表示させることはできません。

● 各モードの調整項目

モードの種類により、調整できる機能が異なります。（調整/設定できない機能は選択できません。）

○：調整可 —：調整不可

アイコン	機能名	CAL Switchモード			
		1-DICOM	2-CAL1 3-CAL2	4-Hybrid-γ	5-ALT
	ブライトネス	○	○	—	—
	Gray Area	—	—	○	—
	Base Area	—	—	○	—
	Hybrid Assignment	—	—	○	—
	Highlight Area	—	—	○	—
	検知感度	—	—	—	○
	Lamb目標値 (最低)	—	—	—	○
	Lamb目標値 (標準)	—	—	—	○
	Lamb目標値 (最高)	—	—	—	○
	モードリセット	○	○	○	○

● ブライトネス（明るさ）を調整する

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100%

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「ブライトネス」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

● モノクロ画像表示エリアのモードを設定する

モノクロ画像表示エリアに適したモードを設定できます（「表示モード（CAL Switchモード）を選択する」（P.13）参照）。

設定範囲

DICOM、CAL1、CAL2

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Gray Area」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・表示エリアの設定変更後、モード設定が「オフ」になっているモードは選択できません（「3-4. モード選択の有効/無効を設定する」（P.20）参照）。

参考

- ・ブライトネスは、選択したモードの値と同一になります。ブライトネスを変更したい場合は、選択したモードで調整してください。

● ベース表示エリアのモードを設定する

ベース表示エリアに適したモードを設定できます。

設定範囲

Base-L、Base-H

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Base Area」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「Base-L」または「Base-H」を選択します。

モード	目的
Base-L	目標輝度値100cd/m ² に設定します。
Base-H	目標輝度値170cd/m ² に設定します。

4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・表示エリアの設定変更後、モード設定が「オフ」になっているモードは選択できません（「3-4. モード選択の有効/無効を設定する」（P.20）参照）。

参考

- ・Base-LとBase-Hでは、ベース表示エリアの輝度値が目標輝度値より高い場合に目標輝度値が適用されます。

● 画像表示エリアの検出タイプを設定する

表示エリアの検出タイプを設定できます。

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Hybrid Assignment」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「Full Scan」/「Partial Scan」/「Custom」のいずれかを選択します。

検出タイプ	目的
Full Scan	表示エリアを自動的に判別します。
Partial Scan	ソフトウェア（Hybrid Gamma Manager）を使用して選択したエリアを、自動的に判別します。
Custom	ソフトウェア（Hybrid Gamma Manager）を使用し、表示エリアを手動で設定します。

4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・ Hybrid Gamma Managerについては、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

● 画像表示エリアのハイライト表示を設定する

画像表示エリアのハイライト表示のオン/オフを設定します。

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Highlight Area」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・ ▼でハイライト表示のオン/オフを設定することもできます。

● 環境照度の検知感度を設定する

環境照度を検知する感度（移動平均時間）を設定できます。設定値を大きくすると、環境照度の変化に応じてブライトネスとLUTを更新する応答性がよくなります。

設定範囲

レベル 1～レベル 5

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「検知感度」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

● 環境輝度の目標値を設定する

ALTモードでは、好みに応じて環境輝度（Lamb）の目標値を設定すると、その目標値にあわせてモニターのブライトネスとLUTを更新します。ご使用の環境にあわせて3つの設定ができます。

項目	目的
Lamb目標値 (標準)	標準的な環境での照度を設定します。また、その照度状態に適した最小輝度、最大輝度を設定します。
Lamb目標値 (最低)	最も暗い環境での照度を設定します。また、その照度状態に適した最小輝度、最大輝度を設定します。
Lamb目標値 (最高)	最も明るい環境での照度を設定します。また、その照度状態に適した最小輝度、最大輝度値を設定します。

照度 (lx)

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Lamb目標値 (最低)」 / 「Lamb目標値 (標準)」 / 「Lamb目標値 (最高)」のいずれかを選択し、ENTERを押します。
3. 「照度」を選択し、ENTERを押します。
4. ▲または▼で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

最小輝度値/最大輝度値

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「Lamb目標値 (最低)」 / 「Lamb目標値 (標準)」 / 「Lamb目標値 (最高)」のいずれかを選択し、ENTERを押します。
3. 「Lmin」または「Lmax」を選択し、ENTERを押します。
4. ▲または▼で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

● 環境輝度の現在値を表示する

環境輝度の現在の値を表示できます。

設定方法

1. 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
2. 「モード」で「現在の状態」を選択し、ENTERを押します。
現在の照度、最小輝度、最大輝度、環境輝度の値が表示されます。

第3章 モニターを設定する

3-1. 設置方向を設定する

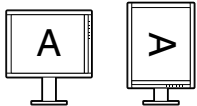
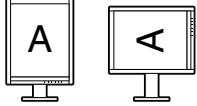

ご使用の環境にあわせて画像の表示方向を変更することができます。

注意点

- ・グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。
- ・コンピュータが起動していなくても設定することができます。

設定方法

1. ①を押して、モニターの電源を切ります。
2. MODEを押しながら①を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「設置方向」を選択し、ENTERを押します。
4. ▲または▼で「横置き」/「縦置き (SW)」/「縦置き (HW)」のいずれかを選択し、ENTERを押します。

モニター設置方向	表示例
横置き 横型設置時に選択します。	
縦置き (SW) 縦型設置時に選択します。グラフィックスボードのユーティリティソフトを使用して表示画像を90°回転させます。	
縦置き (HW) 縦型設置時に選択します。モニターの機能を使用して表示画像を90°回転させます。	

5. ▲または▼で「完了」を選択します。
6. ENTERを押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-2. 階調表示警告を表示/非表示にする

DisplayPort接続時に6bit（64階調）の信号を検知した場合に、階調表示エラーメッセージを表示することができます。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

注意点

- ・通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- ・6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。

1. ①を押して、モニターの電源を切ります。
2. MODEを押しながら①を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「階調表示警告」を選択し、ENTERを押します。
4. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTERを押します。
5. ▲または▼で「完了」を選択します。
6. ENTERを押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-3. 入力信号を設定する

ご使用の環境によっては、入力信号の設定が必要となります。ご使用の環境に応じた信号を選択することができます。

注意点

- 表示する場合には、対応のビューワが必要です。
- コンピュータが起動していなくても設定することができます。

● DVI接続する

設定方法

1. 電源ボタンを押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら 電源ボタン を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」より「信号選択」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「DVI」を選択し、ENTER を押します。
5. ▲または▼で「Signal Format」を選択し、ENTER を押します。
6. ▲または▼で「Standard」または「SDG 8」を選択し、ENTER を押します。
7. ▲または▼で「Sub Pixel Drive」を選択し、ENTER を押します。
8. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTER を押します。
9. RETURN を2回押します
10. ▲または▼で「完了」を選択します。
11. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

● DisplayPort接続する

設定方法

1. 電源ボタンを押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら 電源ボタン を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」より「信号選択」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「DisplayPort」を選択し、ENTER を押します。
5. ▲または▼で「Sub Pixel Drive」を選択し、ENTER を押します。
6. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTER を押します。
7. RETURN を2回押します
8. ▲または▼で「完了」を選択します。
9. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-4. モード選択の有効/無効を設定する

モードを選択するときに、設定したモードだけを選択することができます。
表示するモードが限定されている場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

設定方法

1. 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
2. 「ツール」で「モード設定」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で設定を変更するモードを選択し、ENTERを押します。
4. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・すべてのモードを無効にすることはできません。1つ以上のモードを「オン」に設定してください。

3-5. 表示言語を設定する

調整メニューやメッセージの表示言語が選択できます。

選択できる言語

英語/ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/スウェーデン語/日本語/中国語（簡体）/中国語（繁体）

設定方法

1. 調整メニューの「メニュー設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「メニュー設定」で「言語選択」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で言語を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

3-6. 調整メニューの表示を設定する

● 調整メニューの位置を変更する

調整メニューの表示位置を移動できます。

設定方法

1. 調整メニューの「メニュー設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「メニュー設定」で「メニューポジション」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で位置を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

3-7. EIZOロゴを表示/非表示にする

EIZOロゴの表示/非表示の切り替えができます。

設定方法

1. 電源ボタンを押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら 電源ボタン を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「起動ロゴ」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTER を押します。
5. ▲または▼で「完了」を選択します。
6. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-8. 操作ボタンをロックする

設定した状態を変更できないようにします。

設定方法

1. 電源ボタンを押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら 電源ボタン を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「操作ロック」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「オフ」/「メニュー」/「オール」のいずれかを選択し、ENTER を押します。

設定項目	ロックできるボタン
オフ (初期設定)	なし (すべてのボタンが有効)
メニュー	ENTER ボタン
オール	電源ボタンを除くすべてのボタン

5. ▲または▼で「完了」を選択します。
6. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-9. DDC通信の有効/無効を設定する

DDC通信の有効/無効を切り替えます。通常はオンでご使用ください。（DDC/CI通信とは異なります。）

設定方法

1. ①を押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら ①を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「接続設定」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「DDC」を選択し、ENTER を押します。
5. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTER を押します。
6. 設定が完了したら RETURN を押します。
7. ▲または▼で「完了」を選択します。
8. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-10.DC5V出力の有効/無効を設定する

DC5V出力の有効/無効を切り替えます。通常はオフでご使用ください。

設定方法

1. ①を押して、モニターの電源を切ります。
2. MODE を押しながら ①を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「接続設定」を選択し、ENTER を押します。
4. ▲または▼で「DC5V Output」を選択し、ENTER を押します。
5. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択し、ENTER を押します。
6. 設定が完了したら RETURN を押します。
7. ▲または▼で「完了」を選択します。
8. ENTER を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

3-11.初期設定に戻す

リセットには、モード調整のみを初期設定に戻すモードリセットと、すべての設定内容を初期設定に戻すオールリセットの2種類があります。

注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

- 初期値については、「[主な初期設定値](#)」(P.41)を参照してください。

● モード調整値をリセットする

現在選択しているモードの調整値のみを初期設定に戻します。

設定方法

- 調整メニューの「モード」を選択し、ENTERを押します。
- 「モード」で「モードリセット」を選択し、ENTERを押します。
- ▲または▼で「実行」を選択します。
- ENTERを押します。

モード調整値が初期設定になります。

● すべての設定内容をリセットする

すべての設定内容を初期設定に戻します（「入力」、「オプション設定」メニューは除く）。

設定方法

- 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
- 「ツール」で「オールリセット」を選択し、ENTERを押します。
- ▲または▼で「実行」を選択します。
- ENTERを押します。

「入力」および「オプション設定」メニューを除くすべての設定内容が初期設定になります。

第4章 モニターの品質を管理する

この製品は、Integrated Front Sensorを内蔵しており、キャリブレーションや階調チェックをモニター単独で定期的に行うことができます。

また、モニターの画質を目視で確認するためのパターン画像をモニターに内蔵しており、モニター単体でパターンチェックを実行することができます。

注意点

- 保護パネルRP-901を装着した場合、Integrated Front Sensorは使用できません。「RadiCS SelfQC」の「SelfCalibration」および「階調チェック」は実行しないでください。また、「測定時期」の設定は必ず「オフ」に設定してください。
- 保護パネルRP-911を装着した場合、Integrated Front Sensorを使用できます。装着後、必ずRadiCS/RadiCSLEを使用してコレレーションを実行してください。

参考

- 医療規格に対応した高度な品質管理をおこないたい場合には、別売のモニター品質管理ソフトウェアキット「RadiCS UX1」を使用してください。
- Integrated Front Sensorの測定結果を基準としたいUX1センサーの測定結果にあわせたい場合は、RadiCS/RadiCSLEを使用してコレレーションを実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front SensorはUX1と同等の測定精度を維持することができます。詳細は、RadiCS/RadiCSLE取扱説明書を参照してください。
- キャリブレーションの調整目標および階調チェックの判定値、スケジュールは、「RadiCS」で設定できます。
- キャリブレーションの調整目標、スケジュールは、付属のソフトウェア「RadiCS LE」でも設定できます。詳細は、「RadiCS LE取扱説明書」（CD-ROM内）を参照してください。
- モニターの設置方向を変更した場合は、必ずコレレーションを実行してください。

4-1. キャリブレーションを実行する

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCS/RadiCSLEでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

● SelfCalibrationを実行する

注意点

- 保護パネルRP-901を装着した場合は実行しないでください。
- SelfCalibration実行後は、実際の使用環境温度で階調チェックを実行してください。

設定方法

- 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
- 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、ENTERを押します。
- ▲または▼で「実行」を選択します。
- 設定が完了したらENTERを押します。
SelfCalibrationが実行されます。

● SelfCalibrationの結果を閲覧する

注意点

- ・「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に閲覧できます（「4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する」（P.26）参照）。

設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「結果閲覧」を選択します。
4. ▲または▼で「DICOM」/「CAL1」/「CAL2」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したらENTERを押します。

SelfCalibrationの結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

4-2. 階調をチェックする

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

● 階調チェックを実行する

注意点

- ・保護パネルRP-901を装着した場合は実行しないでください。
- ・実際の使用環境温度で階調チェックを実行してください。

設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「階調チェック」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「実行」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

階調チェックが実行されます。

● 階調チェックの結果を閲覧する

注意点

- ・「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に閲覧できます。

設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「階調チェック」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「結果閲覧」を選択します。
4. ▲または▼で「DICOM」/「CAL1」/「CAL2」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したらENTERを押します。

過去5回までの階調チェックの結果（Passed/Failed/Canceled/ERR）が表示されます。

4-3. 寿命予測データを取得する

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。

注意点

- ・保護パネルRP-901を装着した場合、「測定時期」の設定は必ず「オフ」に設定してください。

参考

- ・データは100時間ごとに収集されます。
- ・「パワーセーブ」を選択した場合、上記のタイミングに到達した後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- ・「定期測定」を選択した場合、次のタイミングでデータが保存されます。
 - 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000、35000、40000、45000、50000時間

設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「LEA」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「測定時期」を選択します。
4. ▲または▼で「パワーセーブ」/「定期測定」/「オフ」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したらENTERを押します。

4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する

階調チェックの結果がNGだった場合の警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定することができます。

設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、ENTERを押します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「設定」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「警告表示」または「QC履歴表示」を選択します。
4. ▲または▼で「オン」または「オフ」を選択します。
5. 設定が完了したらENTERを押します。

4-5. Quick Image Checker機能を使用する

テストパターンを表示し、モニターの表示状態を簡易的にチェックできます（Quick Image Checker機能）。

注意点

- 次の場合は実行できません。
 - RadiCS/RadiCS LE動作中（RadiCS/RadiCS LEを起動している場合は、終了してください。）
 - 調整メニュー表示時
 - DICOM/CAL1/CAL2以外のモード使用時
 - 「Sub Pixel Drive」：「オン」設定時
- モニターの電源を入れた直後は、パターンの準備に数分かかります。しばらく待ってから実行してください。

参考

- 工場出荷時には、AAPMのテストパターンがモニターに保存されています。
- モニターには1パターンのみ保存できます。
- パターン画像を変更したい場合は、RadiCS/RadiCS LEを使用してください。詳細は、RadiCS/RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

設定方法

1. ▲を2秒以上押します。
2. パターン画像が表示されます。

第5章 省電力機能について

5-1. パワーセーブを設定する

コンピュータの状態と連動してモニターを省電力モードにする/しないの切り替えができます。省電力モードに移行すると画面を非表示にします。

注意点

- ・主電源を切るか、電源プラグを抜くことで、確実にモニター本体への電源供給は停止します。
- ・モニターが省電力モードの場合、またはモニターの電源ボタンで電源を切った場合でも、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- ・パワーセーブ移行の5秒前になると予告メッセージが表示されます。

設定方法

1. 調整メニューの「PowerManager」を選択し、ENTERを押します。
2. 「PowerManager」で「パワーセーブ」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「オフ」または「高」/「低」のいずれかを選択します。

設定	機能
高	バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。
低	バックライト最小点灯状態にします。次回、パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。

4. 設定が完了したら ENTER を押します。

省電力の流れ

DVI信号入力時

「DVI DMPM」に準拠しています。

DisplayPort信号入力時

「DisplayPort Standard V1.1a」に準拠しています。

コンピュータの設定に連動し5秒後に省電力モードに入ります。

コンピュータの状態	モニターの状態	電源ランプ
オン	オペレーションモード	緑
省電力モード	省電力モード	橙

5-2. 電源ランプの明るさを調整する

画面表示時の電源ランプ（緑）の輝度を設定することができます（初期設定では、電源ランプは電源を入れたときに点灯し、4に設定されています）。

設定方法

1. 調整メニューの「PowerManager」を選択し、ENTERを押します。
2. 「PowerManager」で「ランプ輝度」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で電源ランプの明るさを「オフ」または1～7の範囲から好みに応じて選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する

モニターのDisplayPortのパワーセーブ中の電源設定を切り替えることができます。

注意点

- 設定を「オン」にした場合、モニターの電源をオン/オフすると、ウィンドウの表示位置がずれることがあります。その場合、設定を「オフ」にしてください。
-

設定方法

1. **⏻**を押して、モニターの電源を切ります。
2. **MODE**を押しながら **⏻**を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「オプション設定」メニューが表示されます。
3. 「オプション設定」で「接続設定」を選択し、**ENTER**を押します。
4. 「DP Power Save」を選択し、**ENTER**を押します。
5. **▲**または**▼**で「オン」または「オフ」を選択し、**ENTER**を押します。
6. 設定が完了したら **RETURN**を押します。
7. **▲**または**▼**で「完了」を選択します。
8. **ENTER**を押します。
「オプション設定」メニューが閉じます。

5-4. 離席時の省電力モードを設定する

人感センサーを「オート」または「マニュアル」に設定すると、モニター正面のセンサーが人の動きを検知します。人がモニターから離れると、モニターは自動的に省電力モードに移行し、画面を非表示にして消費電力を低減します。再度人が近づくと、省電力モードから復帰して画面を表示します。「マニュアル」を選択すると、モニターの使用環境や使用者の動作量に応じて、検知する範囲、感度、省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

参考

- 省電力モードへの移行時には、移行をお知らせするメッセージが表示されます。

注意点

- 「RadiCS SelfQC」実行時には使用できません。
- 横表示時には使用できません。

設定方法

- 調整メニューの「PowerManager」を選択し、ENTERを押します。
- 「PowerManager」で「人感センサー」を選択し、ENTERを押します。
- ▲または▼で「オート」/「マニュアル」/「オフ」のいずれかを選択します。
- 設定が完了したらENTERを押します。
- 「マニュアル」を選択した場合、詳細を設定します。

項目	設定範囲	詳細
検知範囲	70cm 90cm 120cm	設定した検知範囲（センサーから垂直方向）から人が離れると、モニターが省電力モードに移行します。設定範囲（左記）は、おおよその値です。
検知時間	5、30sec 1、3、5、10、15、30、45、60min	人がモニターから離れてから、「離席中」というメッセージが表示されるまでの時間を設定します。メッセージが表示されると、約20秒後にモニターが省電力モードに移行します。
検知感度	レベル 5	対象物の動きの有無にかかわらず、検知範囲内に人がいたり、静止物があると、省電力モードには移行しません。離席していないにもかかわらず省電力モードに移行することが多い場合、この設定に変更することをお勧めします
	レベル 4 レベル 3 レベル 2 レベル 1	対象物の動きの有無が判別されるため、検知範囲内に椅子や壁などがあっても省電力モードに移行できます。設定値を大きくすると（最大で「レベル 4」）、人の小さな動きも敏感に検知し、省電力モードに移行しにくくなります。逆に、設定値を小さくすると（最小で「レベル 1」）、人の大きな動きだけを検知し、より頻繁に省電力モードに移行するようになります。照明や周囲の光の影響などにより省電力モードに移行しなかったり、意図せず省電力モードから復帰する場合には設定値を小さくしてみてください。
リセット	—	すべての設定内容を初期設定に戻します。

第6章 こんなときは

症状に対する処置をおこなっても解消されない場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

6-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない <ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードは正しく接続されていますか。 主電源を入れてください。 ⏻を押してください。 主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点灯：橙色、緑色 	<ul style="list-style-type: none"> 入力信号を切り替えてみてください（「入力信号を切り替える」（P.36）参照）。 マウス、キーボードを操作してみてください。 コンピュータの電源は入っていますか。 人感センサーを「オート」または「マニュアル」に設定している場合、省電力モードに移行している可能性があります。モニターに近づいてみてください。 主電源を切り、もう一度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点滅：橙色、緑色 	<ul style="list-style-type: none"> DisplayPort接続している機器に問題があります。問題を解決し、モニターの電源を入れなおしてみてください。詳細は出力機器の取扱説明書を参照してください。
2. 次のようなメッセージが表示される	<p>この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 信号が入力されていない場合の表示です。 例： <div data-bbox="268 1115 673 1393" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左のような画面が表示されることがあります。 コンピュータの電源は入っていますか。 信号ケーブルは正しく接続されていますか。 入力信号を切り替えてみてください（「入力信号を切り替える」（P.36）参照）。
<ul style="list-style-type: none"> 入力されている信号が周波数仕様範囲外であることを示す表示です。 例： <div data-bbox="268 1509 673 1856" data-label="Image"> </div> <p>fD：ドットクロック fH：水平走査周波数 fV：垂直走査周波数</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（セットアップマニュアル「表示解像度について」参照）。 コンピュータを再起動してみてください。 グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

6-2. 画面に関する症状

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none">調整メニューの「ブライトネス」を調整してください。 (液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOサポートにご相談ください。)
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none">コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（セットアップマニュアル「表示解像度について」参照）。
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none">この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
4. 画面上に干渉縞が見られる/パネルを押した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none">画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

6-3. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 調整メニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作ボタンのロックが機能していないか確認してみてください（「3-8. 操作ボタンをロックする」（P.21）参照）。
2. モードメニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作ボタンのロックが機能していないか確認してみてください（「3-8. 操作ボタンをロックする」（P.21）参照）。
3. （人感センサー使用時） 離席しても画面が消えない/モニターに近づいても画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> モニターの設置環境を確認してください。次の環境では正しく動作しないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> - センサーの正面に、光を反射するもの（鏡やガラス面など）がありませんか。 - 直射日光が当たる場所にモニターを設置していませんか。 - モニターの周辺に赤外線を出す機器がありませんか。 - センサーの前に障害物がありませんか。 センサーに汚れが付いていませんか。汚れがある場合は、柔らかい布で取り除いてください。 モニターの正面に座っていますか。センサーから垂直に出た赤外線によって人を検知します。
4. USBケーブルで接続したモニターが認識されない/モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> USBケーブルは正しく接続されていますか（「7-3. USB（Universal Serial Bus）の活用について」（P.38）参照）。 別のUSBポートに差し替えてみてください。別のポートで正しく動作した場合は、EIZOサポートにご相談ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。 コンピュータを再起動してみてください。 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お買い求めの販売店またはEIZOサポートにご相談ください。 ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。
5. Integrated Front Sensorが出たままになっている	<ul style="list-style-type: none"> 主電源を入れなおしてください。
6. SelfCalibration/階調チェックに失敗する	<ul style="list-style-type: none"> エラーコード表を参照してください。 エラーコード表にないコードが表示された場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。
7. SelfCalibration/階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない	<ul style="list-style-type: none"> RadiCS/RadiCS LEを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS/RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

● エラーコード表

エラーコード	詳細
0***	<ul style="list-style-type: none"> SelfCalibration時に発生したエラー
1***	<ul style="list-style-type: none"> 階調チェック時に発生したエラー
*1**	<ul style="list-style-type: none"> DICOMで発生したエラー
*2**	<ul style="list-style-type: none"> CAL1で発生したエラー
*3**	<ul style="list-style-type: none"> CAL2で発生したエラー
**10	<ul style="list-style-type: none"> 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。 目標輝度を下げてください。
**11	<ul style="list-style-type: none"> 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。 目標最小輝度を上げてみてください
**34	<ul style="list-style-type: none"> センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration/階調チェックをやり直してみてください。
**61	<ul style="list-style-type: none"> センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。 SelfCalibration/階調チェックをやり直してみてください。
**95	<ul style="list-style-type: none"> SelfCalibration/階調チェックの実行条件が正しくない可能性があります。 実行条件を確認し、設定し直してください。

第7章 ご参考に

7-1. アーム取付方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。 <http://www.eizo.co.jp>

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取付部のネジ穴間隔：100mm×100mm
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
 - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
 - 上45°下45°
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重量があります。落としたりするとけがや故障の原因になります。

取付方法

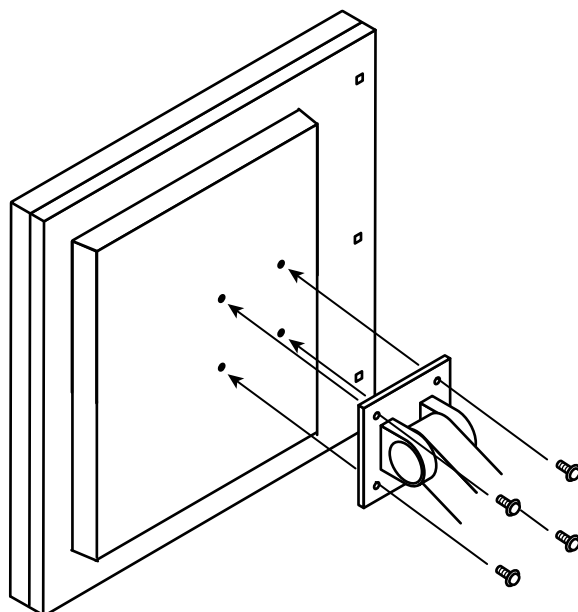
1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

別途ドライバを準備ください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。

3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

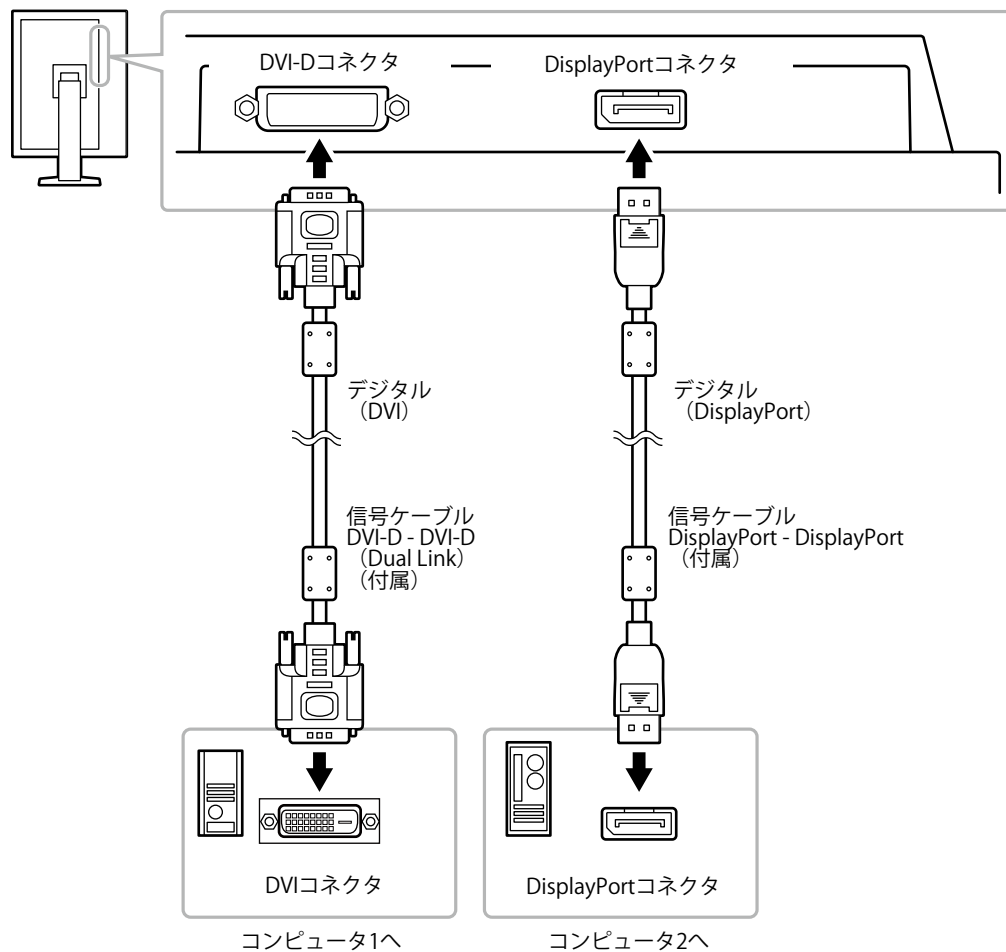
アームまたはスタンドの取扱説明書で指定のねじを使って取り付けます。



7-2. 複数のコンピュータを接続する

この製品は、複数のコンピュータを接続し、切り替えて表示することができます。

接続例

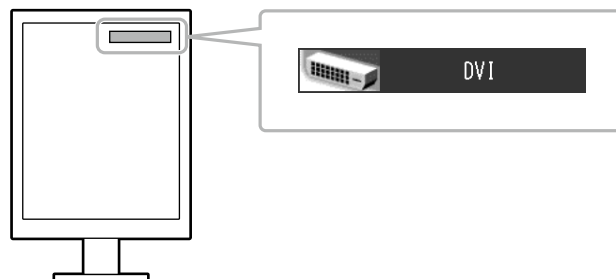


● 入力信号を切り替える

設定方法

1. 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
2. 「ツール」で「入力」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「DVI」または「DisplayPort」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

画面右上に選択された入力ポート名が表示されます。



● 入力信号の切替方法を設定する

設定	機能
オート	コンピュータ信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示します。コンピュータの電源が切れたり、省電力モードに入ると自動的に、他の信号を表示します。
マニュアル	信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択されているコネクタからの信号を表示します。「入力」で表示させたい入力信号を選択してください。

設定方法

1. 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
2. 「ツール」で「入力切替」を選択し、ENTERを押します。
3. ▲または▼で「オート」または「マニュアル」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- 「オート」が選択されている場合は、すべてのコンピュータが省電力モードに入っている場合のみモニターの省電力機能が動作します。

7-3. USB (Universal Serial Bus) の活用について

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

● 必要なシステム環境

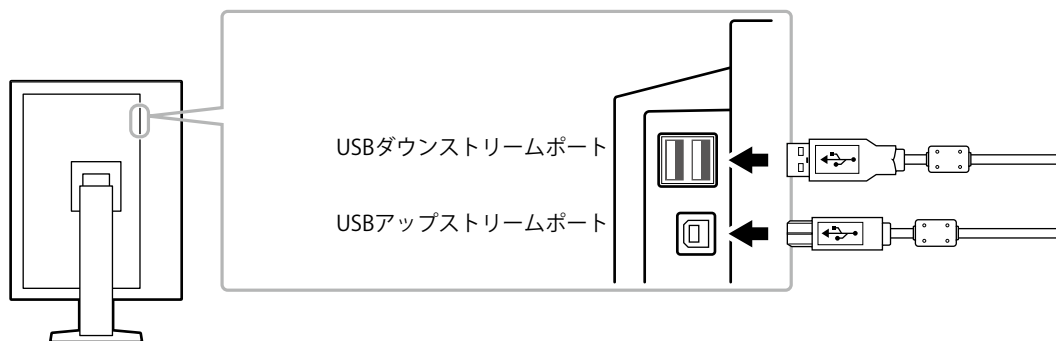
- USBポートを搭載したコンピュータ
- Windows 2000/XP/Vista/7/8またはMac OS 9.2.2およびMac OS X 10.2以降
- USBケーブル

注意点

- 使用するコンピュータ、OSおよび周辺機器によっては動作しない場合があります。各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください。
- モニターが省電力モードの場合、またはモニターの電源ボタンで電源を切った場合でも、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。
- 主電源スイッチオフ時、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。

● 接続方法 (USB機能のセットアップ方法)

1. はじめにコンピュータとモニターを信号ケーブルで接続し、コンピュータを起動しておきます。
2. USB対応のコンピュータのUSBダウンストリームポートとモニターのUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
USBケーブルの接続により自動的にUSBのハブ機能がセットアップされます。
3. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。



7-4. モニター情報を表示する

● 信号情報を表示する

現在表示している入力信号の情報を表示します。

設定方法

1. 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
2. 「ツール」で「入力信号情報」を選択し、ENTERを押します。

「入力信号情報」が表示されます。

(例)



● モニター情報を表示する

この製品に関する情報を表示します。

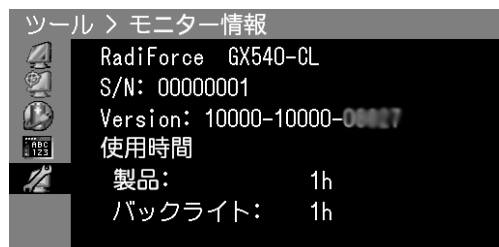
設定方法

1. 調整メニューの「ツール」を選択し、ENTERを押します。
2. 「ツール」で「モニター情報」を選択し、ENTERを押します。

「モニター情報」が表示されます。

製品名、製造番号、ファームウェアバージョン、使用時間などを表示します。

(例)



注意点

- ・工場での検査のため、最初にモニターの電源を入れたときに使用時間が「0」ではない場合があります。

7-5. 仕様

液晶パネル	サイズ	54cm (21.3) 型
	種類	モノクロTFT、LEDバックライト
	表面処理	GX540-CL： アンチグレア
		GX540-CLAR： アンチリフレクション
	表面硬度	2H
	視野角	左右176°、上下176° (CR≥10)
	ドットピッチ	0.165mm
	応答速度	黒→白→黒：約25ms
水平走査周波数		31～135kHz
垂直走査周波数		DVI： 24～61 Hz (ノンインターレース) (VGA TEXT時：69～71 Hz、QSXGA (2048×2560) 時：24～51 Hz)
		DP： 49～61Hz (ノンインターレース) (VGA TEXT時：69～71 Hz、QSXGA (2048×2560) 時：49～51 Hz)
解像度		5Mピクセル (縦型設置時2048ドット×2560ライン (H×V))
ドットクロック (最大)		290MHz
表示階調		16,369階調中1,024階調同時表示 (10bit DisplayPort信号入力時、「Sub Pixel Drive」：「オフ」設定時) 4,093階調中1,024階調同時表示 (10bit DisplayPort信号入力時、「Sub Pixel Drive」：「オン」設定時)
推奨輝度		500cd/m ²
表示サイズ (水平×垂直)		337.9mm×422.4mm (縦型設置時)
電源		AC100V±10%、50/60Hz、1.1A
消費電力	画面表示時	108W以下
	省電力モード時	0.7W以下 (DVI 1系統入力時、USB機器非接続時、 「入力切替」：「マニュアル」設定時、「DC5V Output」：「オフ」時、「DP Power Save」：「オン」時)
	電源オフ時	0.5W以下 (USB機器非接続時、「DC5V Output」：「オフ」時、 「DP Power Save」：「オン」時)
	主電源オフ時	0W
信号入力コネクタ		DVI-Dコネクタ
		DisplayPortコネクタ (Standard V1.1a準拠、HDCP対応)
デジタル信号 (DVI) 伝送方式		TMDs (Single Link/Dual Link)
プラグ&プレイ機能		デジタル信号 (DVI-D) 入力時：VESA DDC 2B/EDID structure 1.3 デジタル信号 (DisplayPort) 入力時：VESA DisplayPort/EDID structure 1.4
寸法 (幅) × (高さ) × (奥行き)	本体	388mm×512～595mm×245.5mm
	本体 (スタンドなし)	388mm×496mm×99mm
質量	本体	約11.5kg
	本体 (スタンドなし)	約8.8kg
可動範囲	FlexStand	チルト角度： 上30°下0°
		スウィーベル角度： 344°
		昇降： 174mm (チルト角度30°時) 83mm (チルト角度0°時)
		ローテーション： 90° (縦表示時反時計回り)

環境条件	温度	動作温度範囲： 0°C～35°C 輸送および保存温度範囲： -20°C～60°C
	湿度	動作湿度範囲： 20%～80% R.H.（非結露状態） 輸送および保存湿度範囲： 10%～90% R.H.（非結露状態）
	気圧	動作気圧範囲： 700hPa～1060hPa 輸送および保存気圧範囲： 200hPa～1060hPa
USB	規格	USB Specification Revision 2.0準拠
	ポート	アップストリーム×1、ダウンストリーム×2
	通信速度	480Mbps（ハイスピード）、12Mbps（フルスピード）、1.5Mbps（ロースピード）
	供給電源	ダウンストリーム：最大500mA/1ポート

主な初期設定値

CAL Switchモード：工場出荷時の表示設定はDICOMモードです。

モード	輝度	ガンマ値
DICOM	500cd/m ²	DICOM
CAL1	400cd/m ²	DICOM
CAL2	300cd/m ²	DICOM

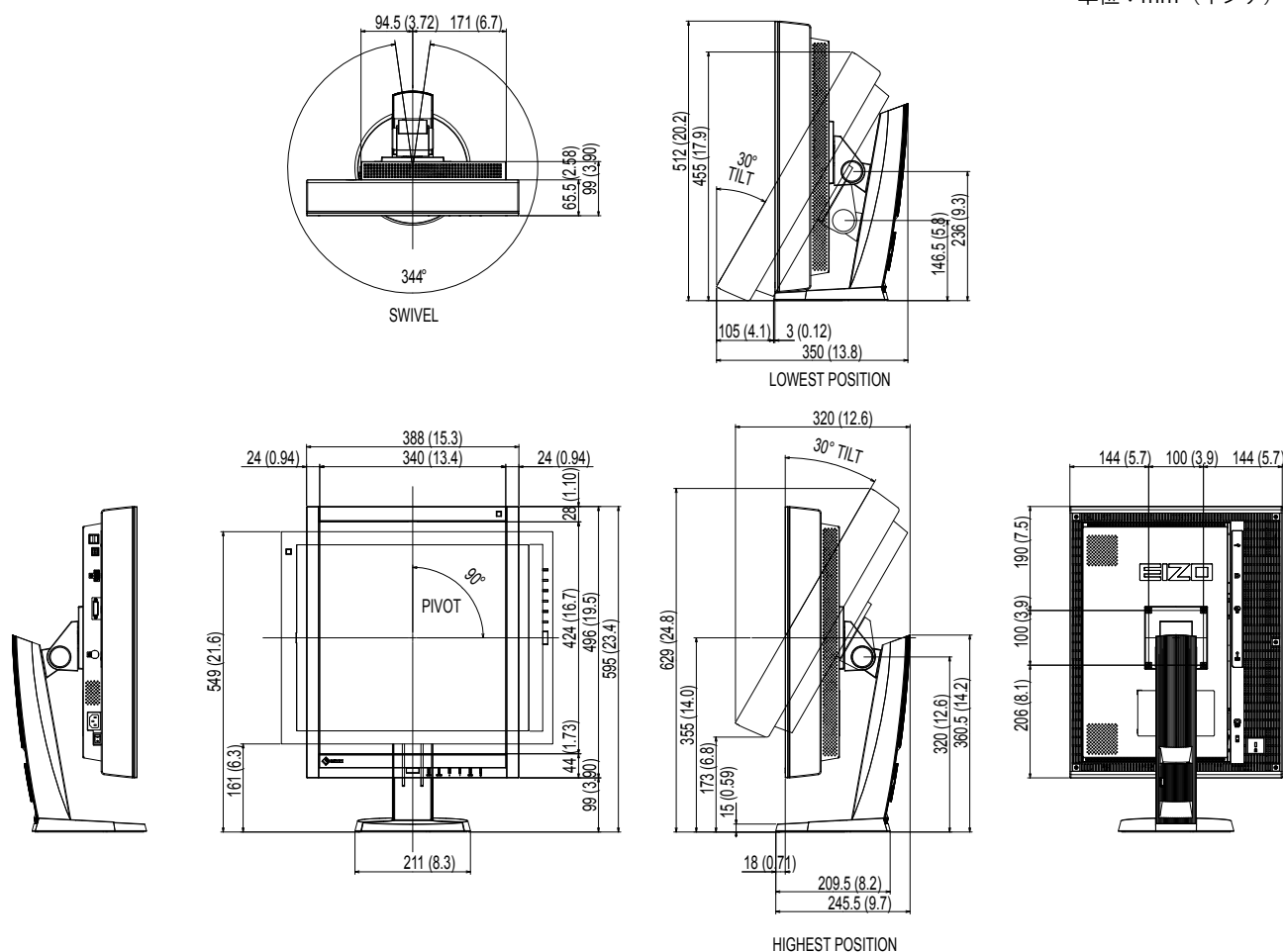
その他

入力※1	DVI
人感センサー	オフ
パワーセーブ	高
DP Power Save※1	オフ
入力切替	オート
起動ロゴ※1	オフ
操作ロック※1	オフ
DDC※1	オン
DC5V Output※1	オフ
設置方向※1	縦置き（HW）
階調表示警告	オン
Signal Format※1	Standard
Sub Pixel Drive※1	オフ
メニューポジション	中央
言語選択	日本語

※1 「オールリセット」（P.23参照）を実行しても初期設定値には戻りません。

外観寸法

単位：mm（インチ）



オプション品

キャリブレーションキット	EIZO 「RadiCS UX1」 Ver.4.1.4以降 EIZO 「RadiCS Version Up Kit」 Ver.4.1.4以降
ネットワークQC管理ソフトウェア	EIZO 「RadiNET Pro」 Ver.4.1.4以降 EIZO 「RadiNET Pro Lite」 Ver.4.1.4以降
クリーニングキット	EIZO 「ScreenCleaner」

オプション品に関する最新情報および最新の対応グラフィックスボード情報は、当社のWebサイトを参照してください。

<http://www.eizo.co.jp>

第8章 用語集

DDC (Display Data Channel)

VESAによって標準化された、コンピュータとモニター間で設定情報などを双方向にやりとりするための国際規格です。

DICOM (Digital Imaging and Communication in Medicine)

米国放射線学会 (American College of Radiology) と北米電子機器工業会 (National Electric Manufacturers Association) が開発した医用画像と通信の標準規格です。

DICOMに準拠した機器を相互接続することにより、画像検査情報や画像データの伝送が可能になります。DICOM Part 14はDICOM規格の中でデジタル医用画像の視覚的解釈を統一し、グレースケールイメージの表示について規格化したものです。

DisplayPort

パソコンや音響、映像機器などをモニターに接続する次世代デジタルAVインターフェースです。1本のケーブルで映像とともに音声も伝送できます。

DVI (Digital Visual Interface)

デジタルインターフェース規格の一つです。コンピュータ内部のデジタルデータを損失なくダイレクトに伝送できます。

伝送方式にTMDS、コネクタにDVIコネクタを採用しています。デジタル信号入力のみ対応のDVI-Dコネクタと、デジタル/アナログ信号入力可能なDVI-Iコネクタがあります。

DVI DMPM (DVI Digital Monitor Power Management)

デジタルインターフェースの省電力機能のことです。モニターのパワー状態についてはモニターオン (オペレーションモード) とアクティブオフ (省電力モード) が必須となっています。

HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)

映像や音楽などのデジタルコンテンツの保護を目的に開発された、信号の暗号化方式。

DVIコネクタやHDMIコネクタなどを経由して送信されるデジタルコンテンツを出力側で暗号化し入力側で復号化することによりコンテンツを安全に伝送できます。

出力側と入力側の双方の機器がHDCP対応していないと、コンテンツを再生できない仕組みになっています。

TMDS (Transition Minimized Differential Signaling)

デジタルインターフェースにおける、信号伝送方式の一つです。

解像度

液晶パネルは決められた大きさの画素を敷き詰めて、その画素を光らせて画像を表示させています。この機種の場合は横2048個、縦2560個の画素がそれぞれ敷き詰められています。このため、2048×2560（縦型設置時）、2560×2048（横型設置時）の解像度であれば、画像は画面全体（1対1）に表示されます。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

Acrobat、Adobe、Adobe AIR、PhotoshopはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

AMD Athlon、AMD OpteronはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Apple、ColorSync、eMac、iBook、iMac、iPad、Mac、MacBook、Macintosh、Mac OS、PowerBook、QuickTimeはApple Inc.の登録商標です。

ColorMunki、Eye-One、X-RiteはX-Rite Incorporatedの米国および/またはその他の国における登録商標または商標です。

ColorVision、ColorVision Spyder2はDataColor Holding AGの米国における登録商標です。

Spyder3、Spyder4はDataColor Holding AGの商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

GRACoL、IDEAllianceはInternational Digital Enterprise Allianceの登録商標です。

Japan Color、ジャパンカラーは社団法人日本印刷産業機械工業会および社団法人日本印刷学会の日本登録商標です。

JMPAカラーは社団法人日本雑誌協会の日本登録商標です。

NECは日本電気株式会社の登録商標です。

PC-9801、PC-9821は日本電気株式会社の商標です。

NextWindowはNextWindow Ltd.の商標です。

Intel、Intel Core、PentiumはIntel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

PowerPCはInternational Business Machines Corporationの登録商標です。

PlayStation、PS3、PSP、プレイステーションは株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

RealPlayerはRealNetworks, Inc.の登録商標です。

TouchWareは3M Touch Systems, Inc.の商標です。

Windows、Windows Media、Windows Vista、SQL Server、Xbox 360は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO ScreenSlicer、i・Sound、Screen Administrator、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

C@T-one、FlexViewはEIZO株式会社の日本登録商標です。

その他の各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、株式会社リコーが制作したビットマップフォント丸ゴシックボールドを使用しています。

VCCI

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

また、製品の付属品（ケーブルを含む）や当社が指定するオプション品を使用しない場合、VCCIの技術基準に適合できない恐れがあります。

VCCI-B

医療規格

この製品を用いる装置を設計、使用する場合は、IEC60601-1-1の規格要求に従ってください。

その他規格

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

この装置は、高調波電流を抑制する日本工業規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

关于电子信息产品污染控制标识



本标识根据「电子信息产品污染控制管理办法」，适用于在中华人民共和国销售的电子信息产品。标识中央的数字为环保使用期限的年数。只要您遵守该产品相关的安全及使用注意事项，在自制造日起算的年限内，不会产生对环境污染或人体及财产的影响。上述标识粘贴在机器背面。

• 有毒有害物质或元素的名称及含量

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
印刷电路板	×	○	○	○	○	○
机箱	○	○	○	○	○	○
液晶显示器	×	○	○	○	○	○
其他	×	○	○	○	○	○
○：表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求以下。 ×：表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求。 (企业可在此处，根据实际情况对上表中打“×”的技术原因进行进一步说明)						

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。

当社製品は、業界団体「パソコン3R推進協会」が回収させていただきます。

回収を希望されるお客様は当社のWebサイトよりお申し込みください。

(<http://www.eizo.co.jp>)

※ この製品は業務用途を意図した製品ですので、ご使用後廃棄される場合は有償となります。

